

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 28 年 3 月

○ 概要

(1) 平成 28 年 3 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 7,475 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）13.4%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,844 円（伸び率 8.1%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,694 億円（伸び率 5.5%）、薬剤料が 5,770 億円（伸び率 15.9%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 852 億円（伸び率 22.3%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤料種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	6,249 円	2.79 種類	22.8 日	98 円
伸び率（%）	+11.5	▲1.7	+2.0	+11.2

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬 4,745 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）686 億円）を薬効大分類にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 962 億円（伸び幅 44 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 62 化学療法剤の 423 億円（総額 623 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,745 億円 （+686 億円）	21 循環器官用薬 （962 億円）	11 中枢神経系用薬 （710 億円）	62 化学療法剤 （623 億円）
0 歳以上 5 歳未満	47.1 億円 （+0.2 億円）	44 アレルギー用薬 （20.4 億円）	61 抗生物質製剤 （10.1 億円）	62 化学療法剤 （7.1 億円）
5 歳以上 15 歳未満	134.4 億円 （+6.1 億円）	44 アレルギー用薬 （71.0 億円）	11 中枢神経系用薬 （16.3 億円）	61 抗生物質製剤 （15.7 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,716 億円 （+259 億円）	11 中枢神経系用薬 （309 億円）	21 循環器官用薬 （289 億円）	62 化学療法剤 （275 億円）
65 歳以上 75 歳未満	1,204 億円 （+199 億円）	21 循環器官用薬 （295 億円）	62 化学療法剤 （191 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（169 億円）
75 歳以上	1,643 億円 （+222 億円）	21 循環器官用薬 （376 億円）	11 中枢神経系用薬 （262 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（187 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,844 円（伸び率 8.1%）で、最も高かったのは京都府（12,257 円（伸び率 12.7%））、最も低かったのは福岡県（8,492 円（伸び率 6.1%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは鳥取県（伸び率 15.3%）、最も低かったのは福井県（伸び率 2.0%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】852 億円（伸び率：22.3%、伸び幅 155 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	63.1%	+4.7%
薬剤料ベース	14.8%	+0.8%
後発品調剤率	65.0%	+3.5%
（参考）数量ベース（旧指標）	42.5%	+4.3%

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+22.3%	+30.0% （65 歳以上 70 歳未満）	+11.5% （10 歳以上 15 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	14.8%	15.8% （75 歳以上）	10.0% （5 歳以上 10 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	757 億円 （+140 億円）	21 循環器官用薬 （207 億円）	23 消化器官用薬 （120 億円）	44 アレルギー用薬 （89 億円）
0 歳以上 5 歳未満	6.2 億円 （+0.6 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.2 億円）	61 抗生物質製剤 （1.6 億円）	44 アレルギー用薬 （1.4 億円）
5 歳以上 15 歳未満	18.3 億円 （+2.4 億円）	44 アレルギー用薬 （10.3 億円）	61 抗生物質製剤 （3.3 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.6 億円）
15 歳以上 65 歳未満	265 億円 （+43 億円）	21 循環器官用薬 （60 億円）	44 アレルギー用薬 （55 億円）	23 消化器官用薬 （35 億円）
65 歳以上 75 歳未満	191 億円 （+36 億円）	21 循環器官用薬 （68 億円）	23 消化器官用薬 （31 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（21 億円）
75 歳以上	276 億円 （+58 億円）	21 循環器官用薬 （79 億円）	23 消化器官用薬 （54 億円）	11 中枢神経系用薬 （37 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,122 円	1,488 円（岩手県）	920 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+16.6%	+22.2%（和歌山県）	+11.8%（島根県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	63.1%	75.2%（沖縄県）	53.3%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	14.8%	18.9%（鹿児島県）	11.6%（徳島県）
後発医薬品調剤率	65.0%	76.7%（沖縄県）	56.9%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	42.5%	53.7%（沖縄県）	35.9%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 28 年 3 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。